

# 単刀直言

憲法改正議論をめぐる論議は、トランプ次期米大統領の出現によって大いに様相が変わりました。あるいは、中国や韓国、北朝鮮の大変動によって。

憲法より柔めめる従来ののんきな「神学論争」は、冷戦構造下の安心した国民の論争だったんじゃないか。自主憲法制定論者にしても、再軍備論者にしてもね、戦後の中間根拠派元首相らが「憲法改正を」言い出したときほど、もう斬りこんだことを恐るような時代ではない。日本の右翼と左翼は、「核の傘」など日米同盟の防衛が確保されているという安心感のもと、わりと「閉塞」で論争をやっていたんじゃないかと思っていますよ。

## 安保も国際協調主義で

私は「認知的な改革論」を唱えてきました。かつて「自衛隊は暴力装置」と話して産経新聞にもボロンチヨにたたかれたけど、自衛隊をきちんと憲法上に位置付けて、憲法がコントロールする規定を設けるべきだというのが私の論議です。

憲法には防衛に関する諸原則を書き込んでほしい。そこでなければ「防衛費は国内総生産（GDP）の1%以内」「赤穂」「原則」などを安全保障基本法などに書いてほしい。これは中国や韓国、北朝鮮とケンカするための話ではない。憲法改正をめつり、自民党総選挙や国政選挙で「憲法が調停か調停か」みたいなナショナリズムを洗脳させるような発想で、9条論争をしてはならない。

今の国際的な戦後体制は、2度の

# 自衛隊を憲法上位置付けよ

仙谷由人  
元官房長官



(仙谷由人提供)

## 運舫体制「近視眼的だな」

世界大戦という大規模戦争を経てたどりついた、人間の理性と知恵の成果だと認識しています。だから、安全保障も国際協調主義でやっていかなければならない。そう考えれば自民主義が半成行軍に出した「憲法改正」でも、「集団安全保障体制」を自衛隊方向性をはっきり書きました。

しかし、これからの「集団安全保障」を掲げる。トランプ氏を認めるのは大變です。日本も憲法と自衛隊との関係をどうするのか、国際協調への参画の仕方を含め問われるでしょう。外務省には「自衛隊が血を流さない」と一渡り認められない。なんて安っぽいことを言うやつもいて、バカじゃないかと思うけど、でも世界の平和をつくることに日本人がどういふ参画の仕方をするのか、多くの日本国民がこの議論に参加できるような問題意識はしなければいけません。

（民進党が）政権を執るとすれば、必ずこうした議論になるのだから、中長期的な戦略が必要なんです。憲法改正を決定する。民進党に選挙権を渡したくは結構かも知れないが、自分たちの「原則」は何なのかを忘れてはいけない。

**政党ガバナンスが大切**

民進党の志位和夫委員長には選挙時代、「もう党名を変えて消費税を拒絶しなさい」とか、強硬な主張を掲げていました。僕の気持ちでいえば、共産党は「社会民主主義」なのだから、付加価値税を認めない政党が成立立つのか、このばかたれ！と思ってるからね。

共産党には、消費税の問題と、自衛隊を憲法上の存在として認めるのか、天皇制をどうするのか。この3つの懸念をきちんと明らかにしてほしい。（国政選挙で）共産党が候補者を減らし、民進の選挙権力をやっつけてくれるのは結構だけれども、それがないまま（安全保障関連法廃止を目的とする）「国民連合政府」構想などという、40年も50年も前の古道具みたいなものを出してこれらも困るんです。それだけはちゃんと書かないとダメだ」と、後輩らには話っています。

そろでないがケシメのない、野合が共産党からない話になってしまわう。かつて小沢一郎氏（元自由民主党）と私たちの仲間が一緒になるとき「こんな器物を加えたら将来大変なことになる」と思いましたが、最終的にその通りになってしまいました。

たからね。

当時、小沢氏と一緒にいれば「政権を執れる」というのが多かったけど、仲間には、党のマネシメムやガバナンスについて考えろ人が少なかった。私は（旧民主党時代）、政府のガバナンスやマネシメムは大いに意を用いたつもりなのですが、党のガバナンスはできなかった。国会政治が前提である限り、与党をどうするのかがないし成り立たないんです。

政治工作とか政治活動の現場で用いる人がほとんどおらず、結果的には小沢氏に好きなようにやられた。彼は期首をつかんでいてということか、幹事長に就いて党の人事とガバナンスをどうにかおしめしという「偏見した党中心主義」のよきな感じでもありました。今の民進党は、そこへんをもう一度確認する必要があります。なかなかこうした議論が聞かれないです。

共産党目当てでも結構

今は与党も野党も、「明日の選挙のためにどうしたらよいか」が強すぎるよね。日本の5年後、10年後の危機のためにどうするのか、当該する危機にどう対処するためにどういふ政府をつくるのか。そのために国民に何を訴え、どう地方から組織化するのか、そういう筋が曲がってこない。共産党をいいたげるものならいいんだけど、選挙権は大いに結構だと思ってる。共産党員は高層化しているし、「参加するためだけに憲法がある」みたいな選挙、候補者の出し方はおやめにならなう。かといって小沢一郎氏（元自由民主党）と私たちの仲間が一緒になるとき「こんな器物を加えたら将来大変なことになる」と思いましたが、最終的にその通りになってしまいました。

（坂本一之、水内茂幸）